

# 彩の合気

平成14年9月22日

編集発行/埼玉県合気道連盟

## ■第20回 連盟合同講習会

— 18団体・192名、猛暑の中で稽古

去る7月7日(日)、入間市武道館に道主植芝守央先生をお招きし、第20回合同講習会を開催することができました。昨年とほぼ同数の参加者で広い館内も人で埋め尽くされました。

講習会は、入間幸武館道場・関戸章弘師範の「記念すべき20回を当地で迎えることができ、光栄に思います。普段はできない他道場との交流を暑さに負けず、大いにやりましょう」との開会の辞にはじまり、連盟を代表して市塚副会長より「実りある講習会になることを期待します」との挨拶の後、早速、道主の実技指導が開始されました。

「例年、埼玉県の講習会は暑いです。先ほど給水を控えるように、との注意がありましたが、必要ならどうぞ摂ってください」この第一声で、安堵の表情を浮かべた参加者もチラホラ…。

準備運動に続いて、片手取り転換法、転換を生かした片手、諸手・片手入り身投げ、一教、二教、いずれの技にも共通する転換の重要性が強調されました。さらに講習は肩取り面打ち小手返し、三教へと進まれ、両手・片手取り四方投げ、肩取り四方投げに変化し、最後は座技呼吸法で締めくくられました。

この間、見事な受けを取られたのは伊藤真指導員でした。再度、「体捌きの重要性」を強調され、講習会が終了しました。

講習中、道主は絶えず稽古者の間を巡回され、自ら手を取り指導されたため、大汗を流されていました。道主の『お墨付き』を買ったにもかかわらず、例年より給水休憩の方が少なかったように見受けられました。

その後、場所を移して開催された直会にも52名が参加。川路理事長の「昨年同様、多数の方が参加され、道主の指導のもと、稽古し、交流が深められたことを喜び合いたいと思います」との挨拶があり、道主からは「皆さんが熱心に稽古されたことを嬉しく思います」との温かい言葉を頂き、中島正吉・入間幸武館館長の乾杯で、和やかな懇親会となり、瞬く間に2時間が過ぎました。



▲気迫のこもった道主の演武

▼県下18団体192名が参加



## 越谷市合気道連盟

瀬尾 裕次

越谷市合気道連盟は、石井前会長が昭和49年、越谷市在住の渡辺信之本部道場師範を指導者に戴き、連盟を設立したものであります。連盟設立から間もなく30周年を迎えようとしています。渡辺師範は越谷市合気道連盟の生みの親であり、育ての親でもあります。

渡辺師範は、昭和5年7月25日生れの72歳。趣味は尺八で、その号は光風。お酒は日本酒。焼酎（昔は一升飲むことも？）。現在、越谷市内で接骨院を開業されております。

渡辺師範が合気道をはじめられたきっかけは、当時、師範が勤務されていた総理府統計局の近くに合気道本部道場があったことによります。

師範は、それまで相撲や柔道を鍛錬していたが、合気会から誘われ、合気道の技に接したところ、合気道の技に簡単に投げられたことで、合気道に魅せられたそうです。

越谷での稽古には、毎週月曜日に大人の部にお出でいただき、有段者から初心者まで直接、指導していただいております。時には初心者に師範自ら受身を取って指導されることもあります。



越市合気道連盟夏期合宿  
平成14年8月18日～19日／小鹿谷

稽古のあと、喫茶店に寄りコーヒーをのみながら師範から今日の稽古のこと、合気道に関するお話などを分かりやすく説明していただいております。

師範から道場以外でも、直接お話を聞くことができることは、越谷市合気道連盟にとっても恵まれた環境であると感じる時間(とき)であります。

師範がよく「私だってまだまだ分からない。合気道は一生修行だ」と言われます。これからも渡辺師範のもと連盟一同、師範とともに歩いて参りたいと思います。

## 合気道桶川愛気会

待鳥 峰喜

「合気」の「合」は、「愛」に通ず。

我が桶川愛気会の創設以来、24年間、指導を頂いている石川宏師範のことばです。

道祖、植芝盛平翁のことばに

「合気道の極意は、おのれを宇宙の動きと調和させ、おのれを宇宙そのものと一致させることにある。いかなる早わざで襲いかかっても、私は敗れない。

合気道は、無抵抗である。

真の武は、いかなる場合にも絶対不敗である。

真の武道とは、宇宙の気を整え、森羅万象を正しく生産、守り育てることである。

武道の根源は、神の愛であり、万有愛護の精神である。」

というのがあります。

石川師範も「合気の動きは、宇宙と一体になることだ」とよく言われます。「ぶつかるな」、「我を捨てろ」稽古の指導の中でよく注意されます。

石川師範の動きは素晴らしく、まさに盛平翁のことばに通ずるものがあります。

一度、合気道をやっているというカナダ人の語学教師が道場に来たことがあります。丁度、その日は師範が指導されている日でしたが、師範の動きを見て、「あれはマジックだ」と言ったほどです。

師範の技は、掛かっていくと、吸い込まれるよう。いつの間にか投げられているといった状況です。

師範は、技が素晴らしいだけでなく、飾るところがなく、解らないところがあると懇切丁寧に指導して頂けます。また、稽古のあと食事をしながら、誰隔てなく合気道談議をする気さくな面もあります。

偉大な師匠が身近にいるのは有り難いことです。

## 合気道大宮道場

宮川幸久



「タンキユウ? (Thank you?)」稽古の後、合気道探究を配るシーンでの市塚先生の冗談交じりの一言です。

普段は何気なく、気さくで笑顔一杯の先生。十年ほど前、初めて会った頃、まさか、この人がそんなに強いわけは無いでしょう? と思ったものでした。

いざ、稽古を始めても相変わらず力が抜けていて怖さというものを全くと言っていいほど感じません。級が下の頃には、その人のレベルに降りて来て「合わせて」稽古して戴けるので、ますます合気道は強いのか? などと疑いながらも、道場の雰囲気の良いに魅かれて通ったものでした。また、海外からいらした外国人の合気道家が、言葉が片言しか通じないのに「まるでわが家のような居心地の良さだ」とおっしゃって帰国されたこともあります。

知識を教えるのが先生、人格を感化するのが師匠

『三年稽古するよりも、三年師匠を探せ』と言うそうですが、これに照らして言えば、大宮道場の雰囲気の良いは、見ているだけで和んでしまう、笑顔一杯の仲良しの奥さんと市塚師範の人柄の良さ・人徳以外の何者でも無いのは間違いないでしょう。

道場で共に稽古した道友たちは、今では富士山の裾野のように遠くアメリカやパキスタンにまで拡がっています。

『真の合気道は相手に喜びや幸福を与えるものである(引土道雄十段)』と言います。こんな時代、私はと言えば、いつの間にか『愛気道』の強さに憧れ、探究し、どんどん魅かれ続けています。

Thank you very much! 素晴らしい先生との出会いをありがとうございます。いつまでも大好きな市塚先生・大宮道場に導かれて…。

世界に平和を…May peace prevail on Earth!

## A &amp; P 石垣道場

尾又富士雄

交差取り一教が始まってから何分経ったのだろうか。今年の夏は格別に暑い。道場には冷房はあるのに能力一杯だ。汗で道着が重く感じてきたその時、石垣先生が見回って来た。

「オマッチャン! 体が捻じれて中心がずれてしまっている」と指摘され、先生自身の模範にて教示していただく。

石垣道場に入門して二十年が経ち、いつからか私のことを「オマッチャン」と呼んでくれる。思い起こせば入門当時はよく喝破されたものである。酒を注ぐ手が片手であれば即「何している!」と。仕事で疲れ、うかない姿であれば「道場に入ったら気持ちを転換しなさい。帰る時にはスッキリしますよ」と心の転換が必要なことを教えていただいた。とにかく気配りは最高である。

女性には「したたかで…しとやかであれ」と、何となくなっとくさせてしまう。

酒にまつわる話を紹介したい。

石垣道場で最高齢(当時70歳)の関谷さんという方が急性心筋梗塞で稽古中に倒れ、死の淵をさまようことが起きた。

先生は自ら1ヶ月以上も好きなビールを絶たれ、関谷さんの生還を祈念した。我々も稽古の始まりと終わりに黙想した。まさしく至誠通天である。いま80歳を迎える関谷さんは元気で稽古している。先生は酒を飲むのも絶つのも一生懸命だ。

また、身嗜みや服装にも気をつかう。そして汚い道着をととても嫌う。「審査での道着は正装である」と言い、汚ければそれだけで審査に受からないことがある。

この文を読まれる方は、いずれの師範のもとで稽古をされているでしょう。

十年、師の技の形を真似、二十年で師の考えていることを知り、三十年で近づき、四十年で悟りたいのは私だけでしょ



▲ 開祖ゆかりの地、北海道白滝村の道場を訪ねて…。

<尾又>

## ■第17回 連盟少年錬成会

— 過去最多の209名参加

4月14日(日)、所沢市市民武道館において、第17回少年錬成会が開催された。県連傘下11団体 209名、過去最多の参加となった。

まず、主催者を代表して、市塚勇連盟副会長の「みなさん、こんにちは」の呼びかけに200畳をほぼ埋め尽くした子供達の元気な声が館内に響き渡った。所沢市教育委員会を代表して、山田参事から激励の言葉を頂いた後、早速、錬成会開始。

所沢市合気道連盟・忍山東師範の指導のもと、嬉々として馬飛びに熱中する子供達の姿には、思わず頬が緩んだ。基本錬成は、学年別に分かれ、後両手取り呼吸投げや入身投げ、最後は座技呼吸法。この間、学年毎のレベルにあった動きで稽古がなされた。

基本錬成後は、1時間余にわたる団体錬成。持ち時間は、入退場も含め5分。大所帯から少人数までさまざまだったが、それぞれ各団体の特徴が発揮された。

会の最後に、連盟・川路理事長より具体的な講評がなされました。まず、「正座で他の団体の演武をよく見ていたこと」について、合気道を通じて貴重なことを学んでいることが強調されました。さらに、特に「礼」がよくできた数団体やむずかしい技に挑んだ団体に対し、賛辞が贈られた。

名前を挙げられた団体の子供達の誇らしげな顔が印象的でした。2時間余に及ぶ今年の錬成会は、無事終了。錬成証とご褒美のおやつを頬ばる子供達の表情は明るく澆刺としていた。来年に向け、さらなる発展を祈念し、会場をあとにした。



第17回少年錬成会で元気に「受身」を披露した和光支部の子供たち

### 1. 連盟・常任委員会

<3月3日：和光市「養老の滝」>

川路理事長、林副会長、松橋事務局長以下、常任理事を含めて10名が参加し、今年度定期総会向け議事の検討、理事会日程等、連盟運営の基本方針が審議された。

### 2. 理事会

<4月14日：所沢市市民武道館会議室>

少年錬成会後、役員、各団体理事17名の参加を得て、第20回合同講習会の確認、打ち合わせ及び今年度総会議事が審議され、常任理事会提案の全ての事項が全会一致で決定され、総会に諮ることが決定された。

### 3. 第20回定期総会 <6月2日：埼玉会館>

今年度総会は37名(出席27、委任状10)により開催された。市塚勇・連盟副会長、川路昌治・理事長に続いて、越谷市合気道連盟の新会長に就任された大島貞雄氏より挨拶がなされ、議事へと移った。

#### Ⅰ. 平成13年度事業・決算報告

松橋事務局長より事業報告、向笠理事より決算報告、三輪監事の監査報告があり、全ての事項が全会一致で承認された。

#### Ⅱ. 平成14年度事業計画・予算案

松橋事務局長より事業計画が、向笠理事より予算案が提案された。また、その他の検討事項として、松橋局長より『彩の合気』のさらなる充実を目指した改善案が提案され、適切な広報費の増額により、発行部数の増大を目指す事が確認された。理事会提案の全ての事項が承認された。

#### Ⅲ. 平成14年度 第17回少年部錬成会報告

#### Ⅳ. 草加合気道研究会の入会表明について

入会届の提出と同時に入会を事後承認することを確認。7月21日、理事長のもとに正式な入会届が提出され、承認されました。

#### 祝電

第20回埼玉県連定期総会のご盛会を心よりお慶び申し上げます。

20年の永きに亘る関係各位のご貢献に感謝の意を表しますとともに、ご参会の皆様方のご健勝を祈念申し上げます。

埼玉県知事 土屋 義彦